

20026

緊急カテにおけるの当院の取り組み

技術やデバイスが発達した現在重症 ACS 症例が緊急 CAG なることが増えている。当院は 3 次救急指定病院であり、心肺停止後蘇生例を含む重症例が増加し、迅速対応のため臨床工学技士の役割も大きい。当院における現状を報告する。昨年の緊急 204 例のうち、CPA 蘇生後症例は 32 例で、6 例に緊急 PCI、残り 28 例中 5 例が遠隔期 ICD 植込みを行った。カテ中の ME 機器は IABP のみ 23 例、IABP と呼吸器 26 例、PCPS2 例、呼吸器 14 例の合計 65 例と 32%に装着され、そのサポート業務を行った。UAP 等診断から治療まで時間が係るものを除く door to balloon time は時間内 74 分、時間外 90 分、CPA 131 分、一般外来 181 分であった。この差は、時間内は先読みで準備と予約が同時進行できるが、時間外は人手が減りカテの決定・準備に時間を要する、CPA は救命医経由のため、カテ室に来るまでに時間を要する、一般外来は、一通りの診断手順を踏むため、心カテ決定に時間を要していた。当院における ACS 患者の対応について特に緊急カテ施行の面から検討した。

評価 1	評価 2	評価 3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号